



昭和大学藤が丘病院 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

# 病院だより

2023年3・4月  
第351号

病院だより第351号 (2023年3・4月号)  
発行者 昭和大学藤が丘病院  
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院  
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛  
編集責任者 広報・公開講座委員長 森岡 幹  
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30  
Tel 045-971-1151

## 覚悟の表明

藤が丘病院 呼吸器外科  
診療科長 吉田 勤

2022年10月より昭和大学藤が丘病院呼吸器外科に赴任し、2023年1月より診療科長を拝命しました吉田 勤と申します。まずは皆様にご挨拶申し上げます。



私は2000年に杏林大学医学部を卒業し、杏林大学医学部第二外科学教室(現 呼吸器・甲状腺外科)に在籍し一般外科および呼吸器外科の研鑽を積んでまいりました。杏林大学では国立がんセンター中央病院出身の教授の薫陶を受け、がん治療の理論的な裏付けと呼吸器外科の技術、および患者さんとその御家族に対する真摯な姿勢を叩きこんでいただきました(感謝しています!)。日産厚生会玉川病院では気胸・嚢胞性肺疾患のオピニオンリーダーのもとで集中的な手術経験を重ね、群馬県立がんセンターでは肺癌の診断および外科治療に従事し、結核予防会複十字病院では近年では希少となりつつある炎症性肺疾患(肺結核など)の外科治療に多く携わることができました。新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院では肺癌の完全鏡視下手術に明け暮れ、和風会所沢中央病院では呼吸器外科の診療科長として診療チームを率いるのみならず、地域連携にも積極的に参加してきました。

また筑波大学診断病理学教室で基礎研究とともに診断病理学を学び、群馬県立がんセンターおよび結核予防会複十字病院では呼吸器外科と病理診断を兼任していました。自分の経験を振り返り、自分の成長に合わせて非常に専門性の高い施設に従事する好機に恵まれてきたと自負しています。

上記の経験を基に、日本呼吸器外科学会専門医・評議員、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医・評議員、日本臨床細胞学会細胞診専門医・評議員等の学会資格を取得し、前述の3学会では学会認定施設の施設責任者の資格を得ています。

私が目指す呼吸器外科診療チームの目標は、1)患者さんの病気を治癒せしめ、苦痛を緩和すること、2)他診療科、他職種、地域医療機関等との連携を強固にし、患者さん中心のチーム医療を円滑に推進すること、

3)世の中に必要とされるプロフェッショナルとしての人材を育成すること、と考えています。つい最近まで昭和大学とは無縁の人生を歩んでまいりましたが、しがらみを絶ち、退路を断って藤が丘の地に参りました。その覚悟を、診療態度としてお示ししていきたいと思えます。昭和大学外科学講座呼吸器外科部門の一員として、昭和大学病院呼吸器外科、昭和大学横浜市北部病院呼吸器センター外科、昭和大学江東豊洲病院呼吸器外科と協力し、専門性が高く、かつ安全で低侵襲な外科治療を目指して邁進いたします。ご指導の程、よろしくお願いたします。

## 教授定年退職に寄せて

藤が丘病院 心臓血管外科  
教授 田中 弘之

私は1977年に昭和大学に入学、1983年には故石井教授の昭和大学外科に入りました。3年目に高場教授の胸部外科に所属し、太田先生の太田総合病院胸部外科に出張しました。その当時は心臓血管外科に山本先生、故舟波先生、道端先生、山田先生、横川先生、呼吸器外科に門倉先生など私からみるとキラ星のように輝く先輩方がいて、楽しい日々でした。



入局後6年目から9年目にかけて South Florida Univ. Tampa General Hp. St Petersburg children Hp.に留学させてもらい、1994年に、故堀科長の藤が丘病院に異動しました。

その当時の循環器内科の教授故春見先生から故真島先生、故長田先生、嶽山先生、現在の鈴木先生と何代もの循環器内科の先生方にご指導いただきました。

また、手術は麻酔科、放射線科をはじめ、藤が丘病院のすべての職員の皆様のおかげで施行できました。さらに昭和大学の他の心臓血管外科(旗の台、豊洲、北部)の御助力にも感謝いたします。

苦しい時もありましたが、上記の先輩方、歴代の院長(真田先生、高橋先生)にも励まされ、今、振り返ると、本当に楽しく仕事をさせていただきました。

今まで私を育ててくれた藤が丘病院、昭和大学への深い感謝とともに、今後の更なる発展を心からお祈り申し上げます。

## テレビドラマとは違った味の「リエゾン」を提供しています

藤が丘病院 精神神経科  
診療科長補佐 堀内 健太郎

当院精神神経科は現在外来を閉鎖しており、リエゾンを中心に活動しています。「リエゾン」という言葉は元来「つなぐ、連携する、橋渡しする」という意味で、フランス語のliaisonに由来します。入院中の患者さんが入院科以外の診療科に関する疾患、症状を併発した時に、他科に依頼することがあります。通常、他科依頼、対診依頼などと呼ばれることが多いのですが、精神科に依頼するときだけ呼称が固有なものとなり「リエゾン依頼」と呼びます。身体疾患と精神疾患が併発した際には、様々複雑な経過をたどるケースも多く、「リエゾン精神医学」という独立した研究分野も存在します。今年、同名のドラマを民放で放映しましたのでご覧になった方もいるかもしれませんが、当科が関与できていない児童精神にスポットが当たっていました。当科ではせん妄等を初めとする高齢者への対応が多く、ドラマとは又違った、日本の高齢化の現状の中で日々業務をこなしております。



### 診療体制

診療体制としては、基本的に常勤は1名ですが、週に4日は昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンターの精神科医師が非常勤で勤務しています。休日のオンコールも同様に昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンターの精神科医師が私とともに対応しています。

### 特徴的な診療領域

総合病院の入院患者の30%が何らかの精神症状を有していると言われていています。元来精神疾患を患っている方はもちろんですが、単なるちょっとした不眠から自殺未遂患者さんの精神症状対応、身体疾患から二次的に出現したせん妄患者さんの精神症状対応、脳障害による高次脳機能障害の精神症状対応、認知症患者の精神症状対応、がん患者さん及びそのご家族のメンタルケア（精神腫瘍学：サイコオンコロジー）などがあります。

1 人医局であるため至らないところだらけで大変恐縮でございますが、何卒宜しく願いいたします。



## 第45回 藤が丘地域連携フォーラムを開催して

1月12日（木）に第45回藤が丘地域連携フォーラムを開催いたしました。本フォーラムは、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、オンラインでの講演とされています。

今回はご多忙の中、79施設86名の医療機関関係者の皆様にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様方には心より御礼申し上げます。

### 第45回藤が丘地域連携フォーラム講演会

1. 「最近話題の皮膚疾患～带状疱疹～」  
皮膚科 中田 土起丈
2. 「ペインクリニックの目的～何の為にしているか、痛みの治療だけではない～」  
麻酔科 米良 仁志

次回は、令和5年4月13日（木）に開催を予定しております。次回のご参加も心よりお待ちしております。

（藤が丘病院 医事外来課 高橋 美保）

## 緩和ケア研修会開催

1月29日（日）、「藤が丘病院緩和ケア研修会」が開催されました。緩和ケア研修会は、がん等の診療に携わるすべての医療従事者が、基本的な緩和ケアについて正しく理解し、知識や技術、態度を習得することで、診断の時から適切に緩和ケアが提供されることを目的としています。

今回は医師・研修医、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士からの参加があり、講師・ファシリテーターは企画責任者の佐々木康医師（産婦人科）を中心とした腫瘍内科・緩和医療科・精神神経科の医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士等、共に多職種で構成され、研修会を開催することができました。

研修会は講義の他、3名から6名程度で構成されたグループで、患者さんとのコミュニケーションの取り方や事例検討を行い、実際に患者さんや他の職種の立場になって検討することにより、積極的な意見交換がなされ有意義な研修会となりました。

これからも地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たし、より多くの医療従事者が患者さんへ適切な緩和ケアを提供できるようにこの研修会を続けてまいります。

（藤が丘病院 管理課 古藤 瑤子）

## 神奈川県警察本部より IMAT に感謝状をいただきました



当院は神奈川県警察本部と IMAT（Incident Medical Assistance Team：事件現場医療派遣チーム）の協定を締結しております。このチームは、人質立てこもり事件やバス・船舶等の乗っ取り事件など、事件発生現場等で傷病者が発生する可能性がある場合に出動し、傷病者発生時に現場で高度な応急治療を行い、救命率を向上させることを目的としております。

人質立てこもり事件対応総合訓練に毎年参加し警察部隊との連携強化に貢献したとして、協定締結後5年が経過したこの度、1月27日（金）に神奈川県警察本部より感謝状が贈呈されました。

今後も、有事の際にはいち早く現場に到着し、不測の事態に備えられるように体制を整えてまいります。



（藤が丘病院 管理課 平山 実佳）

## 174 名の新入職員を迎えました

この4月、藤が丘病院・リハビリテーション病院では看護師 80 名、助産師 3 名、臨床研修薬剤師 6 名、臨床検査技師 2 名、理学療法士 4 名、作業療法士 5 名、言語聴覚士 2 名、診療放射線技師 4 名、臨床工学技士 1 名、ソーシャルワーカー 1 名、事務員 5 名の新入職員 113 名と専攻医 37 名、臨床研修医 24 名の合計 174 名のフレッシュなスタッフを迎えました。

これから同じ職場で働く仲間として、共に頑張っていきましょう。

（藤が丘病院 管理課 鵜飼 直紀）

## 青葉区役所による災害時合同無線訓練が実施されました

2月12日（日）に藤が丘病院内にて青葉区災害時合同無線訓練に参加しました。青葉区内における災害等の発災時に、外部関係機関（青葉区所や近隣の小中学校など）との連絡手段となる無線機を使用し、情報提供や患者搬送調整を行う訓練です。外部との通信状況を確認することにより、組織的な課題や機械のシステム的な課題を見出し、緊急時にも迅速に対応することを目的としています。訓練を行うことで、院内での



課題や訓練に対する改善策も見つかりました。今後も災害に備えて関係機関との協力体制を整えてまいります。

（藤が丘病院 管理課 中村 優花）

## 近隣消防署とのより密接な連携強化に向けて

3月16日（木）、「消防署との連携強化と救急医療に関する知識向上」を目的として近隣消防署の救急隊員の方々にご参加いただき、救急医療勉強会を開催いたしました。

今回はテーマを「救急隊到着後に重篤な症状に容態変化した症例と若年女性のアナフィラキシーショックに対する考察」とし、実際に当院が対応した3つの症例に基づき救命救急科診療科長の林教授にご講演いただきました。講演時には救急隊員の方々から各症例の観察・処置方法等の専門的な質疑がなされ、有意義な勉強会となりました。

今回で35回目の開催となった救急医療勉強会ですが、来年度からは開催頻度を増やし、近隣消防署とのより一層の連携強化に向け活動を続けてまいります。

（藤が丘病院 管理課 廣井 高志）



## 藤が丘駅前地区再整備基本計画（原案）の公表

藤が丘駅前地区では、豊かな緑に囲まれ、人にやさしく、多世代が元気に暮らせるまちづくりの実現に向け、「駅前施設・病院・公園」が一体となった新たなまちづくりに取り組むため、2018年10月に横浜市都市整備局、東急株式会社、学校法人昭和大学の三者で協定を締結しました。

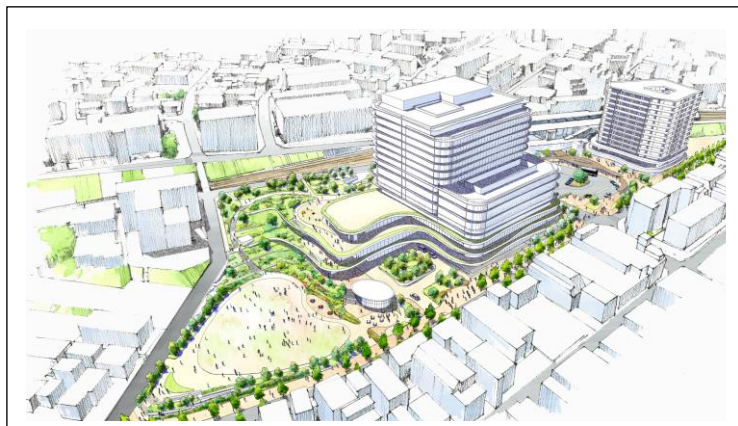
これをもとに2023年3月に「藤が丘駅前地区再整備基本計画（原案）」を公表しました。

藤が丘駅前地区の新たなまちづくりの取り組みのうち、昭和大学藤が丘病院は今後もより適切な医療サービス提供と地域医療貢献のために建替し、機能更新が求められています。横浜北部地域の中核的な病院として、現在の医療機能を中断することなく、引続き高度急性期医療への対応、災害拠点病院としての役割を担うため、新病院整備の検討を進めております。

(藤が丘病院再整備準備室)

横浜市 藤が丘 再整備

検索



〈鳥瞰イメージ（北東側より）※藤が丘駅前地区再整備基本計画（原案）概要版より〉



〈新病院イメージ（駅前広場北西側より）※藤が丘駅前地区再整備基本計画（原案）補足資料より〉

## 診療統計 2023年2月・3月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2023年2月	2023年3月	2023年2月	2023年3月
外来患者数	23,400人 (900.0人/日)	23,089人 (962.0人/日)	3,641人 (140.0人/日)	4,025人 (167.7人/日)
入院患者数	14,325人 (462.1人/日)	14,104人 (470.1人/日)	3,220人 (103.9人/日)	3,883人 (129.4人/日)
紹介率	90.4%	93.7%	68.2%	78.0%
逆紹介率	88.0%	79.9%	69.6%	66.6%

〈広報・公開講座委員会委員〉

森岡 幹 酒井 広隆 鈴木 洋 布山 正貴 小岩 文彦 今井 敦 佐々木 春明  
 松原 大 高木 睦子 柴田 綾 出口 智一 孫 雨農 岡部 圭吾 門田 美佳  
 川手 信行 西村 栄一 小野寺 真美 廣井 高志 鳥居 美弥子 (順不同)